

【 新型コロナウイルス感染症予防接種の注意事項 】

1. 予防接種の効果

ワクチン接種には、発症予防や重症化（入院）予防の効果があることが国内外の複数の報告で確認されている。なお、既感染者であっても再感染する可能性はあり、また、ワクチン接種による追加の発症予防効果が得られることも確認されている。さらに、いずれの年齢群においても、重症化（入院）予防効果は発症予防効果より高いことが確認されている。

2. 予防接種を受けることが適当でない人

① 接種当日、明らかに発熱のある人（体温が37.5℃以上の場合）

② 重篤な急性疾患にかかっている人

③ 接種液の成分に対しアナフィラキシーなどの重度の過敏症※の既往歴がある人

※アナフィラキシーや、全身性の皮膚・粘膜症状、喘鳴、呼吸困難、頻脈、血圧低下等、アナフィラキシーを疑わせる複数の症状

④ その他、予防接種を行うことが接種不適当な状態の人

3. 医師とよく相談して接種を受ける必要のある人

① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する人。

② 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた人及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状があった人。

③ 過去にけいれんの既往のある人。

④ 過去に免疫不全の診断がされている人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人。

⑤ 接種しようとする接種液の成分に対してアレルギーを呈する恐れのある人。

⑥ 抗凝固療法を受けている人、血小板減少症又は凝固障害がある人。

4. 副反応について

接種後に接種部位の痛みや倦怠感、頭痛、発熱等、様々な症状が確認されているが、ほとんどが軽度または中等度であり、現時点で得られている情報からは、安全性に重大な懸念は認められていないと判断されている。また、年少者である方が副反応出現率は低いともされている。なお、国内での検討では、若年男性を中心に、ブライトン分類レベル1～3の心筋炎が報告されている。また、国内において重篤な副反応としてアナフィラキシーが報告されており、接種後30分はその場で健康観察をすること、並びに接種後数日の間に胸痛、息切れ、ぐったりするなどの症状があった場合は医療機関を受診する必要がある。

※重篤な副作用が生じた場合、高齢者は厚生労働大臣が予防接種と因果関係があると認めた場合に、予防接種健康被害救済制度に基づく救済を受けることができます。